

—敬念寺三世前任職「釋玄真」殿—
 令和5年12月8日に本葬儀執り行われる



発行所
 岡谷市郷田一丁目6番3号
 TEL(0266)22-2524
 金松山 敬念寺
 発行
 敬念寺門信徒会
 編集
 会報組織委員会
 朝7時はみ仏さまや
 彼(か)の人との
 出会(であ)いの時間

—前御住職「釋玄真」殿葬儀
 執り行われる—

敬念寺三世前御住職「釋玄真」殿は令和五年十月十日満八十二歳をもって往生の素懐を遂げられました。

前号でお知らせいたしました但、十月十六日関係者によって密葬の儀が執り行われました。

本葬儀は、十二月八日敬念寺本堂において厳粛に執り行われました。

本葬儀は、敬念寺の縁戚寺院である、中野市「命徳寺」宮本正信前御住職が導師を勤められ、松本組寺院僧侶並びに岡谷市仏教会寺院の僧侶衆が結衆を勤めて、格式高く厳かに営まれました。

本堂には門信徒代表など八十余名が参列し、午後一時からの一般弔問には多くの門信徒ならびに関係の方々が弔問されました。

葬儀の経過

◇密葬

日時 令和五年十月十六日 午前十時

場所 敬念寺会館二階講堂

◇本葬儀

日時 令和五年十二月八日

弔問受付午後一時

本葬儀午後二時

次第等(特記)

来賓・客僧 龍谷山本願寺内事部長 藤岡大英様

本山「達書」伝達 石川勝紀様

長野教区教務所長 柳川眞澄様

弔辞奉読 松本組組長・善福寺住職 千原博幸様

敬念寺門信徒会会長

◇中陰法要

本葬儀厳修後引き続き中陰法要が執り行われました。

ご寺院行事

- 8月 4日(日) 新盆合同法要 前10:00
- 8月16日(金) 盂蘭盆法要 前10:00
- 9月23日(月) 秋彼岸法要 前10:00
- 11月10日(日) 報恩講法要 前10:00

ご定例法話会

- 4月20日(土) 講師 義本弘導さん(大阪府)
- 5月20日(月) 講師 横内教順さん(東京県)
- 6月20日(木) 講師 天野真隆さん(兵庫県)
- 7月20日(土) 講師 遠山信敬さん(福井県)

いずれも毎月20日 夜7:00からです。

故第三世前住職
金松玄殿追悼記事

本葬儀には門信徒代表など八十余名が参列させていただきました。ここに尊前に奉読された、門信徒会長の弔辞を紹介し、前住職のご遺徳を偲びたいと思います。

弔辞

霜寒の候、宗教法人敬念寺前住職並びに敬念寺門信徒会相談役・顧問であられた、故金松玄様の本葬の儀にあたり、金松山・敬念寺門信徒を代表して、哀悼のこトばを申し上げます。

釋玄真前ご住職は敬念寺第二世故直躬ご住職のご令嬢である洋子様と結婚されて敬念寺に入山され、中学校教諭として教鞭をとられた後、昭和五十四年に第三世として当山住職に就任されました。爾來四十年の永きに亘って住職として寺門興隆とお念仏のみ教えの伝道教化に努められ、令和元年に御子息である釋宏真様に住職を継承されました。

前ご住職は寺院建造物の建立・整備にご尽力され、門信徒の協力・支援を得て、開山六十周年を機とする平成五年に、会館「洗心閣」と庫裏を新築する大事業に取り組みられました。

また平成十年には、本堂屋根を平

屋根から寺院建築に相応しい破風屋根に大改修して蓮如上人五百回忌法要を迎え、更に平成二十年には本堂前に参拝ホールを新築して親鸞聖人七百五十回大遠忌法要を迎えるなど、寺院整備・境内基盤強化に尽くされました。

併せて、本堂及び会館へのエレベーター設置や木製椅子の導入など、「やさしい寺づくり」を推進されました。

一方、前ご住職が始められたお念仏のみ教えを伝える教化事業としては、毎朝七時からの朝事と日曜礼拝への門信徒の参拝を勧めてこれを定着させると共に、本願寺派布教使を毎月二十日に招いて法話を聴聞する法話を常例とされました。

また、住職就任早々に壮年部活動と婦人部活動を組織し、昭和五十四年に夏の早朝連続参拝をスタートさせ、昭和五十六年には子供から祖父母までを対象としたファミリー参拝を立ち上げるなど、他寺院に先駆けて門信徒が主体となつて企画運営する新しい教化活動を展開され、これらの事業活動は敬念寺の伝統教化事業として脈々と引き継がれて今日に至っています。

更に前ご住職は、宗祖親鸞聖人のご苦勞を偲びその御恩を報ずる「報恩講法要」を大切に勤められ、コロナ禍前の最盛期には本堂での法要が満座となり、会館講堂も満席の百五十名を超える参拝者が一堂に会して

お齋を戴いた光景が懐かしく思い起こされます。

他方、諏訪地域及び伊那地方における本願寺派に属する唯一の真宗寺院として、近隣に在住される真宗門徒を当山に広く受け入れ、新たなご縁を機に寺院興隆に努められました。

対外的なご活躍としては、前ご住職は平成八年に岡谷市仏教会会長に就任され、また浄土真宗本願寺派松本組・組長を歴任されて、地域仏教界の発展に貢献されました。

更には、本願寺ご本山にも、敬念寺から三十有余年に亘つて御流蘇絹糸を毎年献上し続けるという多大な貢献をなされました。その御流蘇絹糸は、本願寺御影堂の宗祖御真影であられる親鸞聖人御木像の念珠房に編まれるもので、平成三十一年には本願寺から表彰されるという栄誉に与られています。

一方、前ご住職との個人的な思い出としては、私が五十代前半の会社勤めの現役時代でしたが、暫くの間いまだ単身での東京勤務生活をするこトになり、前住職さんに朝晩の礼拝用に小さなご本尊、持ち運べる携行本尊を探し求めることが出来ないか相談させて戴いたところ、思いがけずにも前住職さんをお持ちになつておられた、阿弥陀如来様の御絵像携行本尊を差し出され、「この携行本尊を東京に持つて行き礼拝するように」と、前住職さんが所有されてい

た携行本尊を頂戴する幸運に恵まれました。

その携行御本尊は今や前住職さんの形見となつて私の大切な宝物になり、また前住職さんにかけて戴いたその優しいお心と善知識としてのお導きには、いま振り返つてなお甚深なる感謝の念が湧きおこつて参ります。

このように、金松山・敬念寺の中興開山と称し得る活躍をなされ、寺門興隆に努められた前ご住職でしたが、無常のことわりは人をえらばず、十月十日夕刻御歳八十二歳にして前ご住職は往生の素懷を遂げられました。

いまや今生においてその温容に接することは叶わず、無常の風は止むことなく、別離の涙も乾くことはありません。

しかし、この別離の悲しみを仏縁としてご遺徳を偲びつつ、門信徒一同いよいよ仏法聴聞に勤しみ、お念仏を相続してお浄土への道を歩ませ

て戴きます。

このうへは、還相の大悲によつて、お浄土から当山並びに私ども門信徒を照護し、お導き下さいますことを念じ、ただ念仏を申すのみです。

「南無阿弥陀仏」
「南無阿弥陀仏」
「南無阿弥陀仏」
令和五年十二月八日
金松山・敬念寺門信徒会会長
千原 博幸

～ 故釋玄真前御住職本葬儀のようす ～



葬儀式場本堂のようす



境内入口の案内看板



葬儀のようす



本山からの「蓮書(与院号)」を伝達する
長野教区教務所長 石川勝紀様



弔辞を奉読する千原博幸会長



弔辞を奉読する松本組組長柳川眞澄御住職



御導師宮本正信命徳寺前御住職の「御文章」拝読



御住職の謝辞

「第三世・釋玄真前住職」の御功績を振り返る!

(撮影日: 令和元年十二月二十八日)



敬念寺だより百二十九号に掲載された、前住職のご功績を再度掲載しご遺徳を偲びます。

◆◆◆◆

釋玄真・敬念寺第三世住職様は、令和元年十一月十日に営まれた、報恩講法要を機縁に住職の座を退かれました。

昭和五十四年から四十年間の永きに亘り、洋子坊守様と共に、金松山敬念寺の住職として、その歴史を刻んで来られました。

「釋玄真」前住職略史

昭和五十四年、十二年間の中学教諭の職を辞して三代住職を継職される。

爾来、寺院機能の活性化、伝道教化に目覚ましい活動を展開、朝七時の常朝事を中心に日曜礼拝、壮年部の結成、昭和五十六年には婦人部等の教化団体を発足させ、車の両輪として早朝連続参拝、全国各地より布教使を招待しての通年常例法話会の開設、ファミリア参拝立ち上げなど、従来の法要・行事に新風を吹きこみ、新生敬念寺の誕生となった。

また、墓地造成などにより門信徒の数も飛躍的に増加、壇信徒会を門信徒会に改め機構改革も進めてこられた。

平成四年には門信徒の総力を結集し会館庫裡建設、平成十年には本堂を破風屋根に大改修するなど山内を一新した。

平成二十四年の親鸞聖人七百五十回大遠忌を迎えるにあたり記念事業として本堂の耐震補強工事・境内段差解消のためのバリアフリー工事・参拝ホールの新設などを

完成させやさしい寺づくりを推進し、平成二十二年十一月に「大遠忌敬念寺お待ち受け法要・記念事業完成慶讃法要」を厳修した。

教化活動における、大遠忌法要の当山お待ち受けの諸事業・「新たな始まり」の動きの一つとして、仏教讃歌を通じてみ教えを深められるようにと「コールガンダー」発足(平成二十年七月)に繋げられた。十年余を経た現在、報恩講法要等の折、美しいコーラスが本堂に響き、参拝の方々の心に残るひと時をつくりだしている。

斬新な企画として、平成二十四年からお寺の枠にとらわれない各界講師を招き「早朝公開講座」を七回開催し、広く市民にお寺を開放するなどの取り組みもされた。

ガリ版刷りから始めた、寺報が今号まで続く一方、平成二十七年末には、寺のホームページを開設し、活動を情報発信されてきた。

元号が平成から令和に代わったことを節目に、令和元年の報恩講法要を機縁に第一線を退き、ご息子の宏之様・法名釋宏真様に金松山敬念寺の法灯を継承された。

(敬念寺だより第百号五頁の「敬念寺小史」原文を会報委員長が加筆。)



長野教区教務所長様から住職在職30年表彰を受ける (H21.11.8)

昭和52年9月17日発行

敬念寺だより

吉藤 藤吉
一源 源一
木下 藤吉
若行 若行
責任者 責任者
発行 発行

秋の彼岸法要について

檀信使のみならず方には大変お世話さまり有りありがとうございます。秋のお彼岸も近づいてまいりました。本年の彼岸法要は下記のように計画しております。ご家族おまいりでご参詣いた下さるものと同時に下さるか法要をつとめたいと思います。ぜひご参会くださいますようご案内申し上げます。

なお当日子供さんには甘酒の接待があります。また法要終了後簡単に湯茶の接待もおりますので休憩室までごゆっくりお

ガリ版刷り: 初号の敬念寺だより (S52.9.17)

寺院施設整備の写真で見る！「釋玄真・第三世前任職」の御功績



陸屋根当時の本堂



旧本堂と旧庫裏



破風屋根になった本堂（平成10年）



会館・庫裏完成（平成5年）



750回大遠忌記念事業を看板で広報



750回大遠忌記念事業で建設された参拝ホール（平成20年7月竣工）



整備され風格のあるお寺に（撮影平成27年8月）



本堂を椅子席に変更・座卓を改造しバリアフリー化を推進（椅子を選定中：平成20年10月）

令和五年度事業報告

令和五年敬念寺報恩講法要は、十一月十二日厳修されました。今回も、有志が丹精込めて育てた菊鉢で境内を飾り参拝者をお迎えしました。

また、練習を再開した婦人部のコールガンダーが「仏教讃歌」を披露して報恩講に彩を添えました。法要の後、布教使の木賣慈教さん（長野市西敬寺住職）の法話を聴聞させていただきました。



コールガンダーの仏教讃歌発表 5.11.12



菊鉢で飾られた境内 5.11.12

令和六年度 門信徒会年次総会開催の御案内

- 一 日 時 四月二十七日(土) 午後六時
- 一 場 所 敬念寺「本堂」
- 一 議 題 令和五年度事業報告・決算報告
令和六年度事業・予算案承認の件
その件

★年次総会終了後の懇親会は、今年も諸般の情勢から判断して開催を見合わせますのでよろしくお願いいたします。

お世話人(代議員)の皆様には総会開催通知とともに、四月初旬までに封書でお知らせします。(返信ハガキ同封)

令和6年度 敬念寺親睦旅行のご案内

◎令和2年1月以来となる親睦旅行のご案内です。
多くの皆様のご参加お待ちしております!

本山参拝 令和5年 慶讃法要厳修
親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年

NHK大河ドラマ「光る君へ」・紫式部ゆかりの石山寺参拝

期 日：令和6年5月29日(水)～30日(木)
費 用：1人36,000円 募集人員：25名
申込締め切り日：第1次 3月31日 最終 4月30日
申込先：敬念寺まで (0266-22-2524)

行 程

29日 敬念寺(6:00)～世界遺産「宇治平等院」～
(鳳凰堂他平安文化の鑑賞)～
昼食(宇治・喜撰茶屋)～黄檗山万福寺～
日野誕生院(聖人ご誕生の境内見学)・法界寺～
西本願寺(境内散策、買物)～泊：聞法会館

30日 本堂お朝事～西本願寺内見学(書院、唐門、飛雲閣)～
石山寺(本堂参拝と多宝塔、
豊浄殿にて「石山寺と紫式部展」見学)～
昼食(洗心寮：食事と買物)～敬念寺(18:00)

—令和6年度敬念寺報恩講法要の日程についてお知らせ—

11月10日(日) 午前10時から

(法語カレンダー下貼りの日程 11月11日は誤りです!)